

2022 年度入試 国語 第2回

問題		得点率 (%)	問題		得点率 (%)
①	問一	27.5	②	問一	89.7
	問二	37.3		問二	70.8
	問三	68.3		問三	32.5
	問四	41.5		問四	61.0
	問五	44.8		問五	93.8
	問六	88.6		問六	59.9
	問七	72.3		問七	99.1
	問八	71.8		問八	91.0

最高点	2教科受験者	81点
	4教科受験者	86点
最低点	2教科受験者	40点
	4教科受験者	37点

① 出典：河野哲也『問う方法・考える方法』

問一 88 行目に傍線部と似た表現が登場し、100 行目の部分から、筆者が会った研究者や学生と出会った経験をもとにして「人と異なった人生経験をしてきた人こそが、面白い視点を持ちえるし、興味深い発想をするということです」と主張していることがわかります。なお、研究者や学生が活躍する大学では、95 行目からの部分に、「大切なのは、自分で探究する課題を見つけ、さまざまな分野の情報と知識を結びつけながら、自分の課題の解決を目指すような態度を身につけることです」とあることから、課題解決をめざすにあたり必要なのが人と異なる人生経験によって得られる視点と発想であることがわかります。文末は「～から。」とします。概ね良好でした。

問二 25 行目の内容から、子どもの学ぶ機会を保障するために学校に通ったことから、学校という場で子どものときに限り学ぶという形であったことがわかります。主語と述語が不一致である答案も散見されました。

問三 傍線部より後の部分に、大学を例として学校と外の社会との結びつきの例が示されています。国内外の研究機関、企業、地方公共団体や非営利組織、海外の教育機関、高校との連携が挙げられており、これに関して述べられたアが正解です。他の選択肢では、イは「ボランティアを通して企業と関わり」、ウは「日本から留学する必要性がなくなりつつある」がそれぞれ誤りです。エは選択肢の前半と後半が因果関係で結ばれていますが、本文の内容と異なるため誤りです。概ね良好でした。

問四 55 行目、77 行目、81 行目で教養について書かれた内容をまとめます。文末を「もの。」となるようにします。語句の吟味を十分にできていない答案が散見されました。

問五 69 行目からの段落で、食品をめぐる利害関係にはさまざまな立場の人がいて、すべての人に配慮するためには多様な分野と地域の人々をつなぎ合わせる役目が必要であると述べられており、これについて言及しているアが正解です。他の選択肢では、イは「関係するすべての人の希望を受け入れる必要がある」、ウは「人々は自分の帰属する分野や

組織ばかりに目を向けてしまい、他者の不満や不安を無視してしまう」が誤りで、エは具体例を通して筆者が述べたいこととは食い違っているため誤りです。抽象的な筆者の主張を選ぶ問題でしたが、単純な正誤判定ととらえてしまったためか、「ウ」と誤答している答案が目立ちました。

問六 接続詞などを選択する問題です。Aはエ、Bはウ、Cはア、Dはイです。よくできていました。

問七 漢字は楷書で丁寧に書く必要があります。概ね良好でした。

問八 筆者は人と異なった人生経験をすることを重要視していますが、その経験は突拍子もない大冒険である必要はなく、身の回りの手の届く範囲でも、人が目を向けていないことに目を向け、自分なりに問題意識をもって取り組みばよいと述べられており、これに関して言及しているエが正解です。他の選択肢では、アは「自分の帰属する集団に積極的に関わろうとする」、イは「優秀な学校に入学し安定した就職先を選ぶこと自体にもはや価値を見出すことはできないとされている」、ウは「たくさんの知識を身につけることへの姿勢が重要になる」がそれぞれ誤りです。比較的よくできていました。

② 出典：朝比奈蓉子『わたしの気になるあの子』

問一 「海」「軍事」に関する語を使った成句の問題です。一はウ、二はオ、三はイ、四はア、五はエです。大変よくできていました。

問二 傍線2の直後に「ずいぶんむかしの映画なのに、男女差別はたいして変わっていないのかもしれない。」とあり、お姉ちゃんと映画のヒロインとの行動の背景として男女差別があることがわかります。そうすると二人の共通点は、11行目「差別に立ちむかう女性」という点となります。概ね良好でした。

問三 30行目から47行目まで姉が詩音に「ジェンダー」について教えています。そのなかで、ジェンダーとは社会で作られた性別であること、ファッションやヘアスタイルに関するジェンダーをなくそうという動きをジェンダーレスということが述べられていますのでこのあたりを利用して文末が「ポスター。」となるようにまとめます。解答としては「ファッションやヘアスタイル」に限定して書く必要がありますが、「男女差別」「男女平等」というように広げてしまった答案が目立ちました。

問四 傍線4の直前に「そうだったのか」とあるので、このときにはじめてわかったことを考えます。62行目からの姉の会話文に、詩音が坊主になったとき、お姉ちゃんは怒ったけれども、心の中では本当はうれしかったということが述べられています。このことがわかり、詩音は安心したということ「胸のかたまりが溶けていく」と表現したと理解されますので、これらのことを文末が「こと。」となるようにまとめます。概ね良好でしたが、文末が「こと。」とあるべきところ、「から。」となっている答案がかなり多く見られました。また、傍線箇所より後のことを書いている答案も目立ちました。

問五 傍線5の直前に「そういわれると」とありますので、その前の71行目の姉の会話文を参照します。そこには姉妹ともに坊主頭になったので両親がショックを受けていることへの配慮が述べられています。そうということが書かれている選択肢ウが正解です。他の選択肢を見ると、アでは先に詩音が坊主になったような書き方をしている点が誤りです。

イは両親に言及がありません。エは「強制されたと誤解した」というのが本文にはありません。概ね良好でした。

問六 53 行目に「詩音が坊主になったのは、お姉ちゃんがすることを応援したかったからだ。」とあります。しかし、姉は詩音に 60 行目「坊主はもうやめるんだよ」といい、また 71 行目に「パパとママのことを考えるとつらいの。」とありますので、こういったことをまとめます。理由を問う問題なので、「から。」など、ふさわしい文末にします。また、「自分のしていること」がわかるようにという条件がありますので、「詩音が坊主でいること」が示されている必要があります。設問をしっかりととらえている答案がほとんどでしたが、「ジェンダーのために戦う姉を応援したいから詩音も坊主にした」という解答も多く見られました。ジェンダーの話は詩音が坊主になった後の、この問題の場面で詩音は初めて知るので、詩音が坊主にした時点では「ジェンダーのために戦う姉を応援したい」という気持ちはありません。また、主語と述語の不一致が見られる答案も少なからず見られました。

問七 修飾する語を選ぶ問題です。A はウ、B はア、C はイ、D はエです。概ね良好でした。

問八 44 行目からの会話文によって、姉は校則を変えたくて坊主にしたこと、それはジェンダーにこだわっていたことでもあることがわかります。したがってこのようなことが述べられているアが正解です。他の選択肢では、イは「ジェンダーレスとはもとの性とはちがう行動や髪型をすることだと教えられ」、ウは「映画のヒロインにあこがれたためでもあった。」、エは「すぐに怒ったことをわび、礼を言った。」がそれぞれ誤りです。概ね良好でした。